



『東北圏だより』



地域コンソーシアムによるお宝さがし

東北圏広域地方計画懇談会 座長
(東北大学 名誉教授) 森杉 壽芳



国土形成計画の2大目標は、地域の自立と新たな公である。対応して東北圏広域地方計画は、地域の持続ある発展を地域コンソーシアムによって達成するという目標を設定している。そこで問題になるのは、新たな公、新たな民、新たな共、地域コンソーシアムによる起業、生業、プロジェクトはいかなるものであるのか、ということになる。これは、従来の計画のように企業を誘致するのではなく、自分たちが地域の持つポテンシャル（お宝）を発見して業を起こすことを考えることができるかという問いかけである。この問に対して答えようとした試みが、東北大学が主催したお宝さがしシンポジウムであると見なすことができる。シンポジウムは、奥村誠、平川新東北大学教授の基調講演で始まった。奥村先生はお宝さがしの着眼点、平川先生は歴史に豊富なお宝があることをお話いただいた。その後のシンポジウムで、貴重な起業、お宝、生業に成功し持続しておられる4人のお話を伺った。

けせんプレカットの泉田氏からは「山からの一貫体系による家作り」なる事業の紹介をいただいた。山で木を育てる人、製材する人、集成する人、プレカットして都市に届ける人、それらを一貫体系でやれば地元で再生のためのお金を残すシステムができるということを実践された。この事業は、もしも炭素税が適正に課されていたならば、競争相手の化石燃料から作ったプラスチックのような材料の値段が高くなり、泉田さんの事業のコストが相対的に低くなり競争力が増すはずのものが、適正な炭素税がないために、苦戦を強いられていると見なすことができる。適正な炭素税の導入が必要であると思った。次に、長岡に雪国植物園をボランティアで創設、運営をしておられる大原氏のお話をいただいた。雪国の植物は太平洋側の植物と微妙に違うというお話が印象に残った。次は、横手市の建設部長をしておられる佐藤氏より、横手市における公私共同作業の様々な事業、B級グルメ、出前かまくら（出前先はソウルを含む各地）、流雪溝による中心市街地の活性化、田園地域の風景を守るコンパクトシティ推進の紹介をいただいた。最後に、蛍の愛護会を立ち上げての鑑賞会、二井宿峠古道を生かした歴史と自然を中心とした俳句の会、三宿交流（三宿マップ、二井宿峠古道ハイク、蛍の鑑賞会、宮城県七ヶ宿町の火祭り）をプロモートしておられる島津氏のお話を伺った。4人のお話で共通するのは、ことを始める動機にいたるまでに蓄積した豊富な知識である。吉田松陰が二井宿を訪れたこと、東回りの発祥の地であったことなどの郷土の歴史、俳句、森林の維持ができていないという認識、木材の流通コストが高いため国内材が使われていないこと、などの認識が、プロジェクトの実行可能性を考える材料となっている。このような認識からアイデアが生まれている。このような資料収集と整理こそが新たなプロジェクト発掘のために役立つという感想を抱いた。

協議会構成機関からの情報－青森県－

青森県では、「青森県基本計画未来への挑戦」（計画期間：平成21～25年度）を策定し、「2030年におけるめざす姿」の実現に向け、平成21年度から様々な取組を実施しています。

この計画は、県の行政運営の基本方針となるものですが、同時に、県民の方々の理解と共感を得ることで、一人ひとりに何ができるのかを考えてもらい、実際に行動を起こすことにつなげていくことを大きな目標として掲げています。このため、様々な機会を捉えて計画のプロモーションを実施しており、平成21年度は、県内各地で50回、3,500人以上の方々に、直接計画に関するプロモーションを行いました。

特に、青森中央学院大学の学生の皆さんと一緒に「学生発 未来への挑戦プロジェクト」を実施できたことが非常に効果的でした。この取組は、学生の皆さんが、「計画を推進するために、自分たちには何ができるのか」を自主的に研究したものです。写真はその成果発表会の様子ですが、学生ならではの自由な視点による取組が多数提案され、我々職員のみならず、参加した大勢の方々の興味を引くものでした。



▲学生による成果発表会の様子

「計画」は、策定した直後が最も輝いていて、後は輝きを失っていくものと言われがちですが、そうならないためにも、しっかりとしたマネジメントを行うとともに、積極的なプロモーション活動を継続することが重要だと考えています。

東北圏広域地方計画においても、様々なシンポジウム等を通じて計画を浸透させ、より良い圏域を創るために、地域が一丸となって取り組んでいかなければならないとの思いを新たにしているところです。

「青森県基本計画未来への挑戦」HP：<http://www.pref.aomori.lg.jp/kensei/seisaku/plan.html>

取組推進PT（プロジェクトチーム）の動き

第2回『地域医療支援』取組推進PT会議

3月5日、東北厚生局会議室において、第2回地域医療支援取組推進PT会議が開催されました。はじめに、「東北圏における救急医療体制の課題分析等」に関する調査（広域ブロック自立施策等推進調査費による）について、東北厚生局、東北地方整備局から中間報告が行われ、その後、東北総合通信局から遠野市遠隔医療モデルプロジェクトの概要説明が行われました。



▲取組推進PT会議の様子

また、会議に引き続き、「マグネットホスピタル」～医師不足・医師確保・医師育成機構～と題して、東北圏広域地方計画懇談会の委員でもある東北大学大学院医学系研究科教授 伊藤 恒敏 氏からご講演をいただきました。

今後は、「東北圏における救急医療体制の課題分析等」に関する調査結果をとりまとめた上、第3回取組推進PT会議を開催する予定です。

第3回『高速バスネットワークを活用した移動手段の充実』取組推進PT会議

高速バスネットワークを活用した移動手段の充実PTは、「高速バスの共通フリーパス導入に向けた課題把握」及び「高速バスの乗り継ぎ等のニーズ把握」を目標として、高速バス共通フリーパス実証実験及びアンケート調査等による高速バスの利用に関するニーズ調査を平成21年度に実施してきました。

平成22年3月29日に第3回PT会議を開催し、各調査・検討の結果及びそれら調査により判明した課題・改善点について報告し、意見交換を行いました。

高速バスネットワークを活用した移動手段の充実PTは、平成21年度で終了予定でしたが、21年度の調査・検討結果を踏まえ、高速バスの共通フリーパスの導入に向けた課題や、高速バスの利便性向上策に関して引き続き検討を行うため、PTを継続し検討を進めていくこととしました。今年度は前年度の調査により把握した課題等について具体的な検討を行い、PT及び作業部会にて関係機関と調整をすすめていく予定です。

編集後記

新年度を迎え、構成機関の皆様方におかれましても人事異動があったかと思えます。私たち事務局でも約半分のメンバーが入れ替わる事になりました。昨年度まで「東北圏広域地方計画」策定に携わった方々は本当にご苦労さまでした。また、今年度から新たに本計画に携わる方々と昨年から引き続き担当される方々も今年一年よろしくお願ひしたいと思います。(M・I)

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp